

明けましておめでとうございます

明けましておめでとうございます。

輝かしい希望に満ちた新年をご家族の皆さまとお迎えのことと心からお慶び申し上げます。昨年を振り返ると兜町の大発会で株式市場は22年ぶりとなる大幅上昇で幸先の良い年明けとなりました。安倍首相は年頭所感で『明治維新から150年を迎えて人口減少社会は開国と同じ国難であるが、アベノミクスで景気回復は地方にも広がり、一億総活躍社会で先人たちと同じように未来を変えることができる』と述べています。確かに大企業中心の好景気は戦後最長のイザナギ景気(73ヶ月)を超えようとしており、大企業では好決算が発表されています。しかし、地方への広がりはどこまで届いたのでしょうか。地方には景気回復の実感のないまま過ぎ去った1年だったような気がします。

また、世界ではあれだけ敵対心をむき出しにしていたアメリカと北朝鮮が突如会談し、南北朝鮮の首脳が会談するなど和解の兆しが現れて、これで北朝鮮のミサイル攻撃の恐怖は去ったかに見えましたが、日韓は慰安婦問題に象徴されるように国家間の意思の疎通を欠いて冬の時代を迎えることになりましたし、その後の北朝鮮の核放棄の動きは止まったままで、まだまだ安心とはいかないようです。中東の和平が絶望的になるとの同盟国の意見を無視してアメリカ大使館をテルアビブからエルサレムに移転するなど、トランプ大統領は相変わらずアメリカファーストの姿勢を崩さず、G20サミットでは自由主義貿易の盟主を自認していたアメリカの反対で反保護主義の文言を削除した首脳宣言となってしまいました。日本にはTPP 二を超える2国間貿易を迫っており、安倍首相には日本の食料自給率を守り、安全安心な食料提供基地である北海道の農水産業を守る毅然とした立場で交渉に臨んでもらいたいものです。

国内においては平昌冬季オリンピックで羽生選手らの活躍でメダル13個を獲得、今年の流行語大賞は女子のカーリング選手が発した「そだねー」に決まりましたし、テニスでは4大タイトルの全米オープンで日本人初優勝の大坂なおみ選手、野球では大谷選手が大リーグでの二刀流の活躍で新人王を獲得、甲子園では金足農業ファイバーがおこり、その中心選手の吉田輝星選手が北海道日本ハムファイターズに入団するなど、明るい話題が続きました。しかし、その反面パワハラ問題でスポーツ界がゆれ、西日本豪雨では200名以上の死亡者が出る自然災害、森友学園文書偽造事件など多事多難な年でもありました。

北海道では震度7の「北海道胆振東部地震」で初めてブラックアウトを経験し、電力供給事情の脆弱性を思い知らされましたし、厚真町、おかわ町、安平町の3町を中心に大きな被害がもたらされて長期の避難生活も余儀なくされた方がおり、浦幌町職員を支援活動に派遣しましたが、改めて災害対策の重要性を思い知らされました。

浦幌町では商工会青年部創立50周年、千人踊りの会創立30周年、浦幌乳業創立30周年を迎え、給食センターの新築落成、新たなアンバサダーへの委嘱(4人目)、地域おこし協力隊員による新会社創業などがありましたが、野火が多発するという事もありました。

浦幌町の基幹産業である一次産業では酪農関係が引き続き高値安定傾向にあり、ブラックアウトの

影響を受けましたが生産高は好調を維持しました。一方の畑作は6月7月の長雨が続いた影響は最後まで回復する事が出来ず、全ての作物が豊穰の秋を迎えた一昨年とは様変わりの結果となってしまいました。また、林業では材の価格も安定しており、順調な生産が続きましたが、漁業においては主要魚種である秋鮭は2年続いたの不漁となりました。

2019年(平成31年)はどんな年になるでしょうか。3月にはイギリスがEUからの離脱する期限を迎えますが、英国内の政治的問題もあり離脱交渉は困難を極めています。米中の貿易摩擦は中国経済の変調をもたらし、余波は中国向け輸出に依存しているアジア全域に及んでいますし、これまで順調なアメリカ経済の下振れ懸念も指摘されており、世界経済については日本経済への影響が心配されます。

日本では現天皇陛下のご退位により、5月から新年号に変わりますので平成の年号で新年を迎える最後の年ですし、10月から消費税が10%に改定される予定ですので景気の動向にも目が離せません。蝦夷地から松浦武四郎氏により北海道と命名されてから昨年は150年を迎えましたが、浦幌町は明治33年に生剛外2か村戸長役場が設置されたのが浦幌町の開町としていますので、今年で120年の歴史を刻むこととなります。先人は幾多の困難と闘いながら現在の礎を築いてこられたのです。現在を生きる我々は改めて先人の労苦と嘗々として築かれて来た歴史の重みを受け止めるとともに、これから我々の果たしていく役割を思わざるをえません。

開町120年に合わせて、北海道日本ハムファイターズの応援大使が浦幌町に来ることが正式に決定し、選手は11月24日のファンフェスティバルで浦幌町の子供達が抽選をおこない、中島卓也内野手と西村天裕(たかひろ)投手のお2人に決定しました。お2人には2019年を通して浦幌町のPRをしていただきますし、来町して町民の皆さんとの触れ合いもしていただくこととなります。また、1月26日には初めての冬の花火大会を観光協会と十勝毎日新聞社の共催で開催されます。冬の澄んだ空気の中を6000発の花火を打ち上げますので、楽しみにしてください。

浦幌町の最上位計画である「第3期まちづくり計画」は4月から後期4年目を迎えて残す期間は2ヵ年となります。今年度もあと3ヶ月となりましたが、残された課題にしっかり取り組んでまいります。

年頭に当たりまして、これまで同様に町民目線の町政執行を心がけていくこととお誓い申し上げますとともに、今年が浦幌町にとって平穩無事で1年がより良い年であること、町民の皆様のますますのご隆盛とご健勝、そしてご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。